9/30 朝日

細田衆院議長 辞意

体調不良で

細田博之衆院議長

細田博之衆院議長(79)は、体調不良を理由に議長を辞任する意向を固めた。衆院関係者が29日、明らかにした。細田氏は7月に熱中症の症状を訴えて救急搬送されるなど、入退院を繰り返していた。臨時国会で辞任が認められる見通し。▼4面＝説明果たさぬまま

2021年に衆院議長に就任。「一票の格差」を是正するための衆院小選挙区の区割りをめぐっては、中立が求められるはずの衆院議長の立場で「10増10減」案に否定的な見解を示したほか、女性記者に対するセクハラ疑惑が週刊誌で報じられた。22年には不信任決議案が提出された。

14年12月から約7年間、自民党の清和政策研究会(現・安倍派)の会長を務めた。安倍晋三元首相の銃撃事件後、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)との接点が指摘された。今年1月、非公開の場で与野党の代表者との懇談形式で説明に応じただけで、公開の場で説明を行うことはなかった。

細田氏は自民党出身の衆院議員で当選11回。官房長官や党幹事長などを歴任した。(小木雄太)

9/20 朝日

細田氏 説明果たさぬまま

旧統一教会問題・セクハラ疑惑

議長の資質が疑問視され続けてきた細田博之氏(79)が、体調不良を理由に衆院議長の座を去ることになった。数々の疑念に口をつぐみ続けた「言論の府」のトップの退場は次の議長を実質的に選ぶ自民党に重い責任を突きつけている。

▼1面参照

細田氏は党総務会長や幹事長、官房長官などを歴任。2014年からは最大派閥の清和政策研究会（現・安倍派）の会長を7年にわたって務めた後、議長に選出された。

その資質がまず問われたのは、一票の格差を是正する衆院の「10増10減」をめぐる発言だ。就任時には「公正公平な議事運営をしていきたい」と語っていたが、「地方を減らして都会を増やすだけが能じゃない」と独自の3増3減案を提唱。中立的な立場が求められるにもかかわらず、自民の地盤が強い地方の議席数を守るかのような発言に批判が相次いだ。

世界平和統一家庭連合（旧統一教会）との関係では、教団トップの韓鶴子（ハンハクジャ）氏が出席した会合で安倍晋三元首相の名を挙げ、「会の内容をさっそく報告したい」と語っていたことが判明。深い関係が指摘されるにもかかわらず、いったんは書面での回答で幕引きを図ろうとした。その後も、開かれた場で自らの口で説明する姿勢は最後まで見せず、自民内からも「説明に消極的な姿勢がさらなる疑念を招く」（閣僚経験者）との指摘が相次いだ。

週刊文春に報じられた女性記者へのセクハラ疑惑でも、記者会見に応じず、説明責任を果たさなかった。

自民は10月20日の臨時国会召集までに、当選回数や閣僚経験などを踏まえ、次期議長選定を進める構えだが、今のところは、衆目の一致する候補が見当たらないのが実情だ。（森岡航平）